

## ま え が き

戦後世界の鉄鋼業はめざましい拡大成長を示し、過去10年間の粗鋼生産は約83%増加し、なお年々前進をつづけております。このはげしい拡大競争の中にあつて、とくに目をみはらせるものは日本の躍進ぶりであり、その粗鋼生産量は昭和18年の550万tより同36年には約3,000万tに達する伸長で、今や世界第4位の鉄鋼生産国の地歩を占めるにいたりました。また量的拡大もさることながら、技術面でも戦前では予想さえすることが出来なかつた格段の進歩を示しました。

この蔭には昭和24年通商産業省、日本鉄鋼協会ならびに日本鉄鋼連盟の強力な援助の下に鉄鋼技術共同研究会が発足し、鋼材部会はその一部門として分科会を組織し今日まで活動してまいりましたが、各分科会の研究努力が日本鉄鋼業界の技術の発展に寄与した偉大なる功績を見のがすことが出来ません。

現在鋼材部会には圧延理論・帯鋼・線材・中小形・鋼管・薄板・厚板・分塊の8分科会があり、数多くの鉄鋼会社の協力とその推薦による委員の努力により今日にいたる長期間研究討論が続けられてまいりました。このたび帯鋼分科会において貴重な参考資料を編集し、出版することになりましたが、この内容は日進月歩の現状では、すでに旧聞に属するものもあるやもしれませんが、関係各社担当者の数次にわたる熱心な努力の積重ねでありまして、今後の技術向上の参考資料として利用いただければ幸いです。

最後に編集に尽力された関係各位、資料提供に御協力いただいた関係各位および委員・幹事諸氏に対し深く感謝いたします。

昭和38年4月

日本鉄鋼協会共同研究会

鋼材部会長 平 世 将 一